

## 2022年度第1回4月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2022年4月
2. 開催の場所 各委員に資料を郵送して番組をお聞きいただき、  
意見・感想を返信してもらう形式で開催
3. 委員の出席 委員総数8名  
返信総数8名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	副委員長	河又弘子
	委員	竹内明子
	委員	白幡冬彦
	委員	富田哲夫
	委員	大森玲子
	委員	石松英昭
	委員	和久井要子（新任）

#### 4. 議 題

- (1) 特別番組「宇都宮ブラックス応援実況生中継」  
3月26日（土） 14:45～17:30

- (2) その他

## 5. 議事内容

### (1) 特別番組「宇都宮ブレックス応援実況生中継」

番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴していただいた

議題説明：プロバスケットボールBリーグの宇都宮ブレックスの実況中継。毎シーズン数回の実況中継を行っているが、今回は、栃木放送デーとしての試合のため、現地でのブース展開やハーフタイムショーを含めたイベント的な中継となった。

各委員からは、

- 広告が少しうるさく感じたが、いつしか栃木放送デーの会場に引き込まれた。会場の様子や雰囲気、盛り上がり、熱気も実感できた。特にハーフタイムショーの歌は熱くなった。とても良い実況番組だった。アナウンサーとリポーターのハイテンポで歯切れ良い解説と口調には感心した。
- ハーフタイムショーの様子や、年代も様々な人達の実況中継を聞いている様子を取り入れており、実況中継としてとてもよく工夫されていると思った。アナウンサーの実況はとても聞きやすかったが、母性本能をくすぐるなどの表現は控えていただきたいと感じた。
- 高校生をコメンテーターとしたり、地元シンガーソングライターの応援ライブなど、演出を工夫しながら番組を盛り上げていた。バスケットボールの実況は選手の動きが激しいため、勝敗の行方が大きく左右し、得点経過が気になる試合以外は、映像のないラジオでの放送は疑問。
- 単なる実況だけでなく、イベントなども放送に盛り込まれ、会場にいなくても熱気が伝わってくる楽しい放送だった。栃木放送を全国の人に聞いてもらうツールとしても有効と思う。コメンテーターにユースチームの高校生を採用したこともよかった。ただし野球と違ってバスケットボールは実況が難しいスポーツで、実況の在り方をより工夫するとよい。会場の音量と実況音声のバランスも問題なのか、どのような試合展開なのか分かりづらく感じた。
- 野球と違って、動きの激しいバスケットボールをラジオで実況するのは、選手の動き等を伝えるのが難しいと思うが、テレビとは違った聴き方ができた。合間にファンの応援メッセージがあって、選手にも励みにもなると思う。
- ラジオで長時間のスポーツ中継は、最後まで通して専念して聴いている人は少ないと思われる。音声のみの制約はあるが、意外にも臨場感が感じられた。ユースチームのコメンテーターやハーフタイムショーなど工夫していた。コメンテーターのコメントが的確で活舌よく、聴きやすかった。

- 日頃バスケの試合を観戦しているので、ラジオ中継の難しさを感じた。知っている人にとっては専門用語がわかるのでプレーやテクニック、展開が把握できるが、知らない人には、音楽あり応援ありCMありの賑やかな時間に過ぎなかったのではないか。出演者の方々の努力が非常に感じられるが、やはり高度なプレーは映像からの視覚情報で楽しむことが一番と感じた。
- アナウンサーをはじめ、解説者やコメンテーター、歌手など、地元ならではの関係者が出演していたため地域密着の番組という印象を受けた。スポーツが盛り上がると元気なイメージにもつながると思っている。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

## (2) その他

2022年3月末をもって、大出正志委員と古口悟委員が退任しました。  
また2022年4月より和久井要子氏が新委員に就任しています。

## 6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

## 7. 番組審議会の答申および意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」  
(2022年5月15日(日) 午前8時5分放送)
- ② 当社のホームページに掲載(2022年5月15日～)
- ③ 当社事務局に議事録備え置き(2022年5月15日～)

以上